

## 令和7年度 第3回 川西市介護保険運営協議会 議事録

日 時:令和8年3月19日(木)午後1時30分～午後3時00分

場 所:川西市役所 7階大会議室

出席者:

(出席):14名

吉岡 健一(会長)、上農 哲朗(会長職務代理者)、樋口 淳一、鷺野 奈美子  
本田 恵子、日下部 しづ子、山本 敏行、柏崎 靖久、高田 浩行、木部 美代子  
片岡 大雅、本田 美代子、大久保 徹雄、片峰 純子

(欠席):1名

中村 敏美

(事務局)

福祉部:船木部長、田中副部長

地域福祉課:曾我課長

介護保険課:貞松担当課長、田村課長補佐、橋川

(傍聴人):0名

(その他):3名

ジェイエムシー株式会社

### 1. 開会

開会挨拶

〈川西市 越田 謙治郎市長よりビデオメッセージ〉

#### 【第9期計画の成果と継続】

「介護人材確保プロジェクト」と「認知症対策アクションプラン」を2本の柱として事業を展開しました。その結果、全国から視察や問い合わせが来るなどの成果が出ており、今後も高齢者福祉・介護の向上に取り組めます。

#### 【第10期計画への理念と決意】

「保険料が高いからサービスを削る」という会計上の議論ではなく、まず「必要な政策は何か」を徹底的に議論した上で保険料を設定すべきであると考えます。介護サービスを制限するのではなく、市民が健康であり続け、介護を必要としない日常生活を充実させることで、結果的に介護保険財政の膨張を抑える方向を目指しています。「人生100年時代」を見据え、川西市の新たなモデルとなるような計画にしたいと考えています。

### 2. 協議事項

(1)川西市高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画の策定に向けた各種調査の結

果(速報値)について

〈事務局説明〉

資料 1「令和7年度川西市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告書(速報版)」

資料 2「令和7年度川西市在宅介護実態調査結果報告書(速報版)」

参照

〈質疑応答〉

質問内容(質問者は委員):「Q」と表記する、回答内容(回答者は事務局):「A」と表記する

〈質疑応答〉

Q.明峰小学校区の回答数が突出していますが、特別な働きかけがあったのでしょうか。また、地区別グラフの並び順が統一されていない点や、資料1の7ページの「介助が必要になった原因」や74ページの「飲酒習慣」を地区別で出す必要性について再考すべきではないでしょうか。

A.明峰小学校区の回答数については前回の調査でも同様の傾向があり、中学校区単位ではバランスが取れています。グラフの並び順や集計項目の精査については、最終報告書に向けて修正・検討を行います。

Q.介護予防や身体機能維持に注力し、費用抑制を図る方向性は評価できます。川西市はもともと認定率が低く健康な高齢者が多いですが、現場としては「要支援」から「自立」へ戻るためのインセンティブやアプローチをさらに強化してほしいです。

A.第9期の「認知症対策アクションプラン」等の評価を行い、新計画に反映させることを検討します。

Q.高齢になるほど女性比率が高まる中、参加が少ない「男性高齢者」の居場所づくりが鍵となるように思います。飲酒習慣のある男性も多いため、ボランティアのような構えた活動だけでなく、柔軟な交流の場を検討してはいかがでしょうか。

A.現在もアクティブシニア向けの体力測定会等を実施していますが、意見を参考に展開を検討します。

Q.今回の調査結果は非常に興味深いですが、今後、川西市の強みや弱みを分析し、どう対策していくかという具体的な方針も示していただけるのでしょうか。

A.本日の議論を踏まえ分析を行い、7月頃に骨子案として根拠に基づいた説明を行う予定です。

Q.介護保険サービスを利用していない理由で「本人に希望がない」という項目がありますが、男性の割合が女性より高いのが気になります。男性へのアプローチがやはり課題だと思います。

ます。また、ACP(人生会議)の認知度が依然として低いことも懸念されます。

A.ACPについては「つながりノート」などの施策を進めておりますが、なかなか浸透が難しいのが現状です。前回の調査から大きな変化は見られませんが、引き続き普及に努めてまいります。

## (2)川西市高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画の策定に向けた事業所アンケートについて

### 〈事務局説明〉

資料 3「川西市介護サービス事業所等アンケート調査」参照

Q.複合施設の場合、回答は拠点単位で行うのか、それとも各事業所(サービス種別)ごとに行うのでしょうか。

A.基本的には国の「介護人材実態調査」をベースとしており、拠点ごと・サービス種別ごとの回答をお願いしたいと考えています。ただし、あまりに細分化しすぎると回答者が混乱するため、そこまで細かくするつもりはありません。

Q.事業所が一度「満杯」や「人手不足」を理由に断ると、ケアマネジャーからの依頼自体が来なくなります。アンケート上の「拒否件数」が1回であっても、その裏にある潜在的なニーズや課題がこれだけ見えるのか疑問です。ケアマネジャー側に「依頼を断られた件数や理由」を問うアンケートがあれば、より実態が見えるのではないのでしょうか。

A.提供側とケアマネ側、どちらの視点を重視するか、あるいは項目をどう工夫するか、実態把握に向けた最適な方法を再度検討します。提供側とケアマネ側、どちらの視点を重視するか、あるいは項目をどう工夫するか、実態把握に向けた最適な方法を再度検討します。

Q.「常勤職員数」について、掃除や厨房など、介護報酬の配置基準に含まれない職種まで含めるのか、あるいは抜くのでしょうか。基準を明確にしないとデータがバラバラになる恐れがあります。

A.本来の目的は「将来的な専門職不足」の把握です。基準内の専門職で足りているかに加え、事務やドライバーなど「何が足りなくて困っているか」を拾えるよう、項目の設け方を再検討します。

## 3. その他

### 〈AI 共同送迎サービス実証実験の概要について〉

川西市では、介護職員の約半数が50歳以上という現状や今後の生産年齢人口の減少、介護需要の増加を見据え、人材不足対策として「送迎業務の共同委託」の実証実験を進めてい

ます。これまでの調査で、通所介護職員の業務の約 3 割を送迎が占め、約 4 割の介護職員が負担を感じていることが判明したため、外部団体への委託による負担軽減を図っています。

この実証実験は、ダイハツが提供する AI 活用システム「ゴイッショ」を用いて最適なルートを作成し、社会福祉法人正和会が所有する車両とドライバーを活用して、複数の事業所の利用者を共同で送迎する全国初の取り組みです。特に、午前と午後の入れ替え時間(昼前後)の送迎が重なり、職員が休憩も取れないほど多忙になる「半日型デイサービス」特有の課題解決に重点を置いています。

2026 年 3 月 27 日まで実施されるこの検証を通じて、共同送迎の実現性や負担軽減効果を測定し、介護職員が本来の専門業務に専念できる環境を整えることで、ケアの質の向上や離職防止、ひいては介護保険サービスの持続可能性を高めていくことを目指しています。

#### 〈中央地域包括支援センターのあり方について〉

令和 8 年度予算において審議を行い、承認をいただける方向で現在至っております。予定に関しましては、令和 8 年 7 月に新たな窓口を設置し、令和 9 年 3 月末で従来の形を廃止するというスケジュールで進めていく予定です。

#### 〈次回の開催予定について〉

令和 8 年度第1回の介護保険運営協議会は7月上旬の開催を予定。